



戸田市立小・中学校 英語教育ブックレット 2025

Booklet for English Education in Toda City, 2025

戸田市の目指す子供像（小・中9年間の一貫した英語教育）

- ・ 誰とでも主体的に関わろうとする子供
- ・ 互いの気持ちや考えを英語で伝え合うことができる子供
- ・ 豊かな国際性を身に付けた子供



戸 田 市 教 育 委 員 会 戸田市英語教育研究推進委員会

—お願い—

本ブックレットの活用にあたっては、以下の資料（電子データ）との併用により深い理解と高い効果が期待されます。日々の授業改善に向けて御活用ください。

- ・ 『戸田市立小・中学校英語教育ブックレット2020及び2022』
- ・ 『戸田市立小・中学校 全学年の年間指導計画案例（外国語活動／外国語科）』

戸田市が目指す英語教育

本市では、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を中心に据え、小・中学校9年間を見通した一貫性のある英語教育を展開することを目指しています。また、コミュニケーションを図る資質・能力を次の「**言語活動を通して**」育成します。

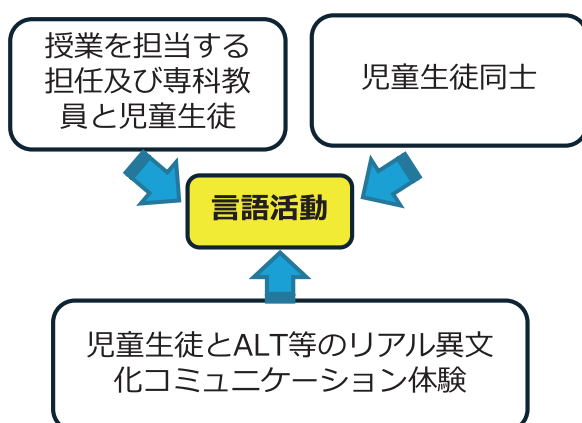
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
低・中学年	体験的に理解を深め、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	児童の興味・関心に合った題材や活動を設定し、気持ちや考えを伝え合う。	相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
高学年	実際のコミュニケーションにおいて活用できるような基礎的な言語材料及び言語技能を用いる。	伝え合う目的や必然性のある場面・状況でコミュニケーションを図るとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や表現を推測しながら音読したり書き写したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	他者に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
中学校	目的や場面・状況に応じて、簡単な情報や考えなどを理解し、表現し、伝え合う。	日常的・社会的な話題について、既習表現を十分に活用し、論理的に伝え合う。	複数領域を統合した言語活動や即興で伝え合う課題を設定し、主体的な発信力を高める。

戸田市の目指す子供像（小・中9年間の一貫した英語教育）

- ・ 誰とでも主体的に関わろうとする子供
- ・ 互いの気持ちや考えを英語で伝え合うことができる子供
- ・ 豊かな国際性を身に付けた子供



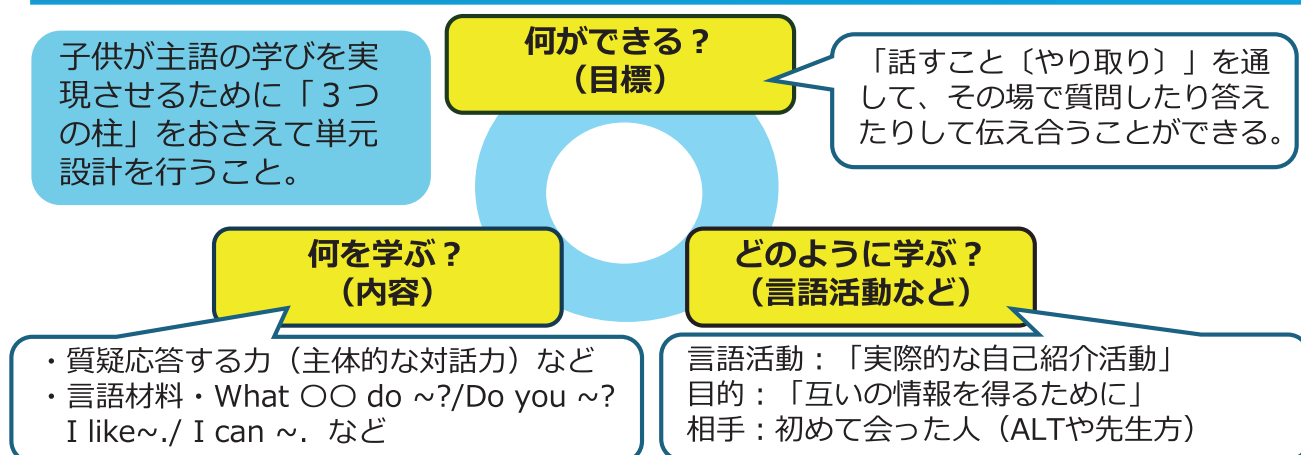
「外国語を通じてコミュニケーションを図る資質・能力の素地及び基礎」を育むために



「外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育む」ためには、授業の方法等を含む教育課程の在り方と運営方法の改善を図る必要があります。母語の場合も同様だが、人が生きる上で必要なコミュニケーション力（資質・能力）を育むには、先ず、口頭による対話力（会話力）を磨くことが重要です。会話に必要な言葉は、**実際のコミュニケーションを通して**徐々に身に付けていきます。外国語を用いたコミュニケーション力（資質・能力）を育むには、母語の時より多くの**リアルコミュニケーション（実体験）学習**を要します。そのため、疑似的なコミュニケーションだけでなく、目的・場面・状況を明確に設定した「**対話のやり取り**」を数多く**実体験させることが大切**です。

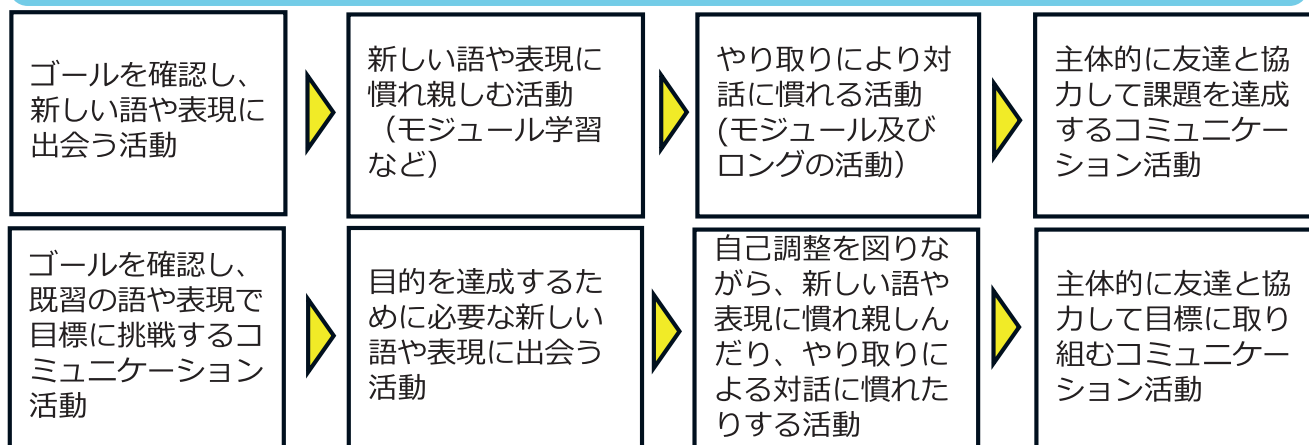
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

視点1 単元計画の作成（教材研究にあたって）



視点2 授業計画の作成（1単位時間の流れ）

「主体的な学び」の実現のために、児童生徒の興味・関心に基づき、題材や活動を設定する。また、トライ＆エラーができる環境、自己調整を図る場面も意図的に設定する。



「言語活動」を通して指導する

※単元の目標を踏まえ、児童生徒のレディネス・興味関心に応じて計画すること。

視点3 授業改善チェックリスト

①単元等で育成を目指す資質・能力を明確にする（単元計画）

- ☐ 本単元の活動を通して、**育てたい資質・能力を明確**にしている。（重点となる領域）
- ☐ 目標達成に向けた「言語活動」で「**何を指導するか**」を**明確**にしている。
- ☐ 児童生徒が**どのような変容の姿なら「おおむね満足」**かを事前に想定している。

②「言語活動」を通して指導する（授業計画）

- ☐ 「**何のためのコミュニケーションか**」を明確にし、場面・状況を具体的に設定している。
- ☐ **トライ＆エラー**を繰り返す場を十分に確保している。
- ☐ **目標や活動のねらいに向けた指導**（気づきを促す中間指導）の場面を計画している。
- ☐ 「言語活動」の「**ヤマ場（児童生徒が変容する言語活動）**」を設定している。

③目標達成に向けて指導した内容を評価する（形成的な評価 ⇄ 授業の改善）

- ☐ 本時の目標達成に向けて行った「**指導の在り方と方法**」は適切である。
- ☐ 評価規準による**見取りが可能な指導**をしている（「評価と指導の一体化」）。
- ☐ 児童生徒が変容する以前まで、**適切な指導・支援**を繰り返し行っている。

本市の英語教育の実態（小学校）

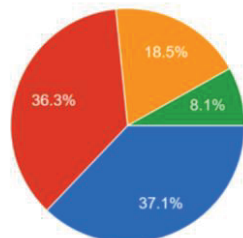
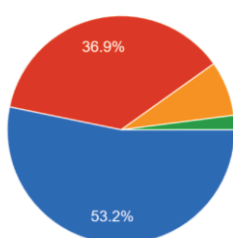
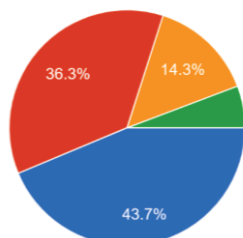
本市の英語教育の成果と課題を把握するため、毎年、市内全小学校3年生以上の児童を対象とした英語教育の実態及び意識調査を行っている。以下、令和6年度の調査結果である。

英語教育意識調査

外国語の学習は楽しいですか。

あなたは外国の人や友達と会話をしているときに、反応（うなずく、あいづちなど）したり、自分の考えを伝えたりしようとしていますか。

あなたは、外国の言葉や文化などに興味（きょうみ）をもっていますか。



● そう思う
● どちらかといえばそう思う
● あまりそう思わない
● 思わない

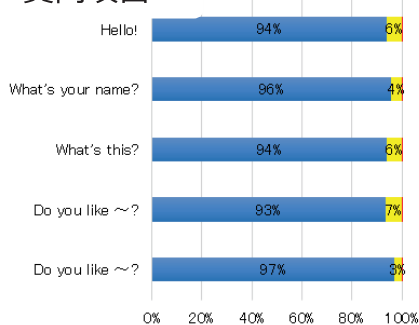
n=4645

英語教育実態調査

n=4972

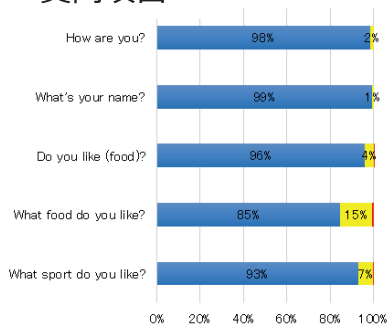
質問項目

3年生



質問項目

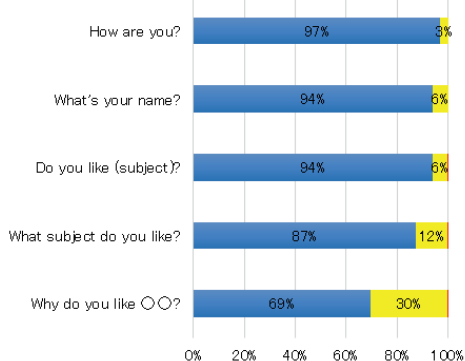
4年生



■ ア 積極的にコミュニケーションした
■ イ 何らかの意思表示はあった
■ ウ 無反応

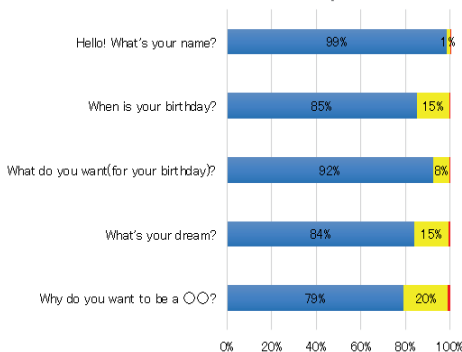
質問項目

5年生



質問項目

6年生



【調査方法及び内容】

本調査は、ALTが1対1のインタビュー形式で、各学年で学習する基本表現を使って質問し、応答する形式で実態調査を実施。

各学年で5問の質問を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度（反応）を評価するものであり、言語スキル（英語が聞けた、言えた）を見る調査ではない。

小学校英語教育の意識調査及び実態調査の結果について

- ・「外国語の学習は楽しいですか。」に肯定的な回答をする児童は80%、外国の言葉や文化に興味をもっている児童が73%程度である。
- ・全体的に「無反応」の児童の割合が少なく、ALTに対し何らかの意思表示を示し、コミュニケーションを図ろうとしていることがわかる。
- ・自分の考えを述べる質問「What～?」「Why～?」に「積極的にコミュニケーションした」児童の割合は、他の質問に比べて少ない。引き続き、中学校の英語教育で重視する論理力の育成に向けて、その第一歩である根拠や理由を示すコミュニケーション活動に慣れるように取り組んでいく。

本市の英語教育の実態（中学校）

本市では、9年間の英語教育の成果指標として、英検3級以上の取得率だけでなく、全国並びに県の学力・学習状況調査の結果を参考としている。また、戸田市の「授業がわかる調査」をモニタリング指標として設定し、以下のとおり取組状況を把握している。

令和5年度全国学力・学習状況調査 平均正答率

領域	戸田市	埼玉県	全国
聞くこと	64.9	59.6	58.4
読むこと	58.6	51.4	51.2
書くこと	28.9	24.1	23.4
話すこと	16		12.4

対象：中学校第3学年（平均正答率 単位：%）

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査 平均正答率較

英語	戸田市	埼玉県	県比較
中学2年	65.4	61.9	+3.5
中学3年	61.4	54.6	+6.8

（平均正答率 単位：%）

授業がわかる調査の経年比較（令和3年度と令和5年度）

肯定的な回答の割合 （単位：%）	授業が「わかる」		授業が「たのしい」	
	令和3年度	令和5年度	令和3年度	令和5年度
中学1年	69.0	68.8	71.4	65.3
中学2年	69.9	60.8	67.5	56.5
中学3年	72.7	70.6	65.4	64.9

各調査結果から

- ・全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国・県の平均正答率と比較して大幅に上回っている。また、4技能において全体的に正答率が高い。
- ・授業がわかる調査においては、経年比較から全学年において「授業がわかる」・「授業が楽しい」の肯定的な回答の割合が下がっている。

小・中学校の実態をもとに、以下のとおり英語教育推進計画を策定し、取り組む。



戸田市英語教育推進計画2025 ～3×ECプラン～



戸田市の英語教育の目標

- 小・中9年間の一貫した英語教育を通して育てたい子供像



- 中学校卒業時に英語でプレゼンテーションができる子供の育成
- 中学校卒業時に英検3級以上取得率64%以上（令和7年度）

小・中一貫英語教育カリキュラム

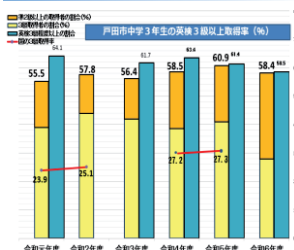
小学校 Elementary School

低学年：年間20時間程度
 中学年：年間70時間（ロング+モジュール）
 高学年：年間70時間（ロング+モジュール）
 ふれる→慣れる→楽しむ 対人コミュニケーション活動

中学校 Junior High School

戸田市版CAN-DOリストを活用したAll English授業
 A L Tを活用した複数領域統合言語活動
 即興性・持続性を高めるスモールトーク
 I C Tを活用したプレゼンテーション

中学3年生の英検3級以上取得率推移



着実な英語力の向上

- 戸田市英語教育推進委員会を核とする英語教育改革の推進【小・中一貫教育】
- 教育課程特例校として英語活動を実施小・中一貫英語教育カリキュラム
- 小・中学校全校にALTを常駐配置
- 中学校区別小・中連携授業研究会の実施（小学校2校・中学校1校）年間3回
- 英語教育推進リーダーを活用した研修センター研究員による英語指導力研修
- A L Tとのマンツーマンによるインタビュー等のパフォーマンステストの実施
- 各種学力・学習状況調査の弱点分析・補強
- I C Tの活用（デジタル教科書・タブレット）
- 英語検定受験費用助成事業
 中学校3年生【英検3級・準2級】
 小学校6年生【英検Jr.GOLD】

3×ECプラン

Enjoy
Enrich
Explore

Communication Plan (3×ECプラン)

①ALの視点からの授業改善

- 英語指導・評価用ルーブリックの活用
- 考えや気持ちを伝え合うやり取り（即興で持続性のある会話）の充実
- 複数領域統合言語活動の充実
- アウトプット活動の充実（ディベート等）
- エビデンスに基づく授業改善（全国学調・県学調・英検・各種調査等）

②教員の英語力向上

- 小学校教員の英語免許取得を促進
- 教員の英検取得を促進
 小学校：英検2級、中学校：英検準1級
- 産官学と連携した質の高い研修

③グローバル人材の育成

- 海外体験派遣事業への児童生徒の派遣
- ブリティッシュ・ヒルズへの生徒派遣
- 教育×テクノロジーの推進（EdTech）
 （遠隔授業・音声認識・AIの活用）

産官学との連携

（株）ボーダーリンク
 インタラクティブ東北
 毎週月曜日A L T meeting開催

株式会社 LoiLo
 「ロイロノート」を活用したプレゼン

株式会社 mpi 松香フォニックス
 モジュール対応デジタル教材
 SWITCH ON!を活用した授業

サイエンスホールディングス株式会社
 英検3級対策講座2回実施【9月】

文部科学省 教科調査官による指導

日本を代表する有識者による指導
 文部科学省 国立教育政策研究所
 名誉所員 渡邊 寛治 先生
 武蔵野大学 教育学部
 客員教授 村川 久子 先生

指導上の留意点（小学校）

コミュニケーション力を育むためのアプローチ

- (1) 学習指導要領の「コミュニケーションの見方・考え方に基づく言語活動の設定」
- (2) 「子供たちの考えや気持ちを伝え合う言語活動」を重視
- (3) 「子供たちが発信したがるトピック」を選択し、「やり取り/発表」の活動を設定
- (4) 常に「評価規準」を意識しながら、「目標達成のための言語活動」を展開
- (5) 活動で形成されていく資質・能力を評価規準/評価基準で見取りながら授業を展開
- (6) 形成的評価から得る情報を基に、授業の在り方と方法の改善を図る

児童の資質・能力を育むために、自分の気持ちや考えを伝え合う場（活動のヤマ場）を設定しましょう。そして、次ページのとおり、客観的に見取る形成的な評価規準を策定しましょう。さらに、評価基準と目標に向けて指導する手立てを設定しておくことで、学びの質を向上させましょう。



渡邊 寛治 先生
戸田市英語教育運営指導委員会委員長
文部科学省国立教育政策研究所名誉所員

モジュール活動の充実に向けて

小学校「外国語活動・外国語」のモジュール学習は、**45分間のコミュニケーション活動をより深まりのある「言語活動」にするために**、活動で用いる言語材料（語や表現等）に「なじむ」ことを目的とし、基本的には学級担任が行う。

※ただ単にゲーム等を行う時間ではない。

※学習評価は、45分間授業の中で行う。

15分間モジュール

「言語材料になじむ時間」

- ・45分授業で慣れ親しんだことの復習（効率的な繰り返し練習等）
- ・高学年は、「読むこと」「書くこと」
- ・言語材料への理解や練習

15分

15分

15分

45分間授業

実際に外国語（英語）を用いて互いの**考えや気持ちを伝え合う言語活動**を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

「R7小学校モジュール・カリキュラム案」参照

小学校高学年「書くこと」の指導上の留意点

「書くこと」においては、小学校の目標を踏まえ、児童の過度な負担とならないよう十分留意し、指導を行う。

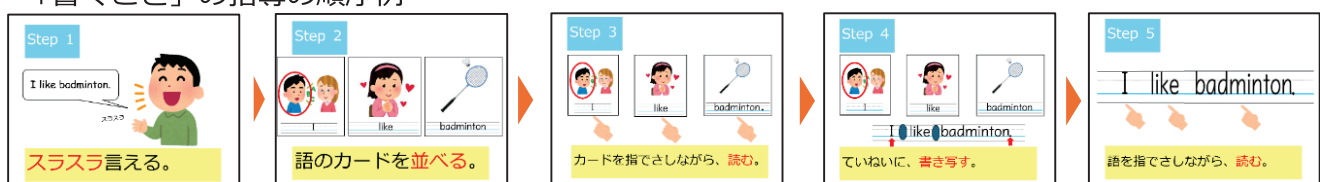
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編 高学年

第2節英語1目標（5）書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

「書くこと」の指導の順序例



①語や表現を示したり書いたりするときは、大文字、小文字の違い、文字の高さ等を意識できるよう

4線を用いて指導しましょう。

②読んだり、書いたりするときには、文字だけでなく絵や写真等の**言語外情報を有効に活用**しましょう。

小学校外国語科 ロング授業案 5年生

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。 Over the Horizon		
実施時期	4月 第8時		
活動目標	世界の名前の言い方を知り、世界と日本の文化に対する理解を深める。		
評価規準	主 技 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。		
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動※評価	ALT の活動
1 あいさつ	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。	・挨拶の後、“How are you?”と気分を尋ねるなど児童とコミュニケーションを図る。
2 ウォームアップ	・歌を歌う。 ・ゲームをする。 (またはチャンツ)	・歌の指示を出す。 ・これまでに慣れ親しんだ言語材料を使ったゲームをする。	・児童と一緒に歌う。 ・ゲームに必要な表現を発話する。
3 コミュニケーション活動	日本や外国の名前の言い方について知り、文化のちがいをかんがえよう。		
・書くこと	・世界の姓の言い方について知る。 ・薄くなっている文字をなぞる。 ・クイズをする。 ・ALT と HRT のやり取りを聞く。	【Do you know?】 ・外国の姓の言い方は様々で、ミドルネームがあったり、家族名名前を入れたりすることなどに気付かせる。 ・日本名の英語での名前の言い方についてとりあげる。 ・英語国の姓についてクイズを出す。 【Challenge】 ・ALT とやり取りを提示する。	・ALT の名前について説明する。 ・それぞれの名前の意味について説明する。 ・HRT とやり取りを提示する。
・話すこと(やり取り)	会話例【※ 英語のコミュニケーション文化では、親しみを込め、名前を付けて会話をします。】 H: Hi! A: Hi! I'm Taiyo. My family name is Suzuki. What your name? A: (ALT の姓と名を伝える。) H: Nice to meet you, ○○(名前). A: Nice to meet you, too, Taiyo. H: Bye! A: Bye!		
	・ペアでたずね合う。	・隣の児童やその他の児童とやり取りをさせ、様子を評価する。	・児童と一緒に名前をたずね合う。
	※主 技 (話・や) 評価規準は上記欄参照(行動観察・ふり返しカード) <本時の評価基準(基準 B: 評価規準)> 主 基準 A: 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、 <u>思いつく語句や表現をできるだけ多く取り入れながら、積極的に</u> お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。 基準 B: 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。 基準 C: 基準を満たしていない。HRT や ALT の支援を得ながら、伝えようとしている。 技 基準 A: 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、 <u>既習表現を取り入れ、会話を広げながら、</u> お互いの考えや気持ちを伝えている。 基準 B: 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝えている。 基準 C: 基準を満たしていない、HRT や ALT の支援を得ながら、伝えている。		
4 まとめ・ふりかえり	・評価規準を用いて、ふりかえりカードを書く。	・振り返りカードを発表させる。 ・意欲的に活動できた児童を称賛する。次時の活動に向け、学習意欲を促す。	※単元末の授業では、学習者の「単元目標」達成状況を把握しましょう。 全児童が規準(基準 B)をクリアしていることが望ましいです。
5 あいさつ	・あいさつをする。	・児童に挨拶をさせる。	

学習者用デジタル教科書・1人1台端末活用事例

活用事例① 画面分割機能の活用

<デジタル教科書活用のポイント>

学習者用デジタル教科書の隣り合わないページ同士やPicture Dictionaryを1画面に2分割表示することで参照したいページを一覧することができ、学習効率を高める。

【関連領域】

聞くこと

話すこと〔やり取り〕

例①

Unit 5 「Let's go to the zoo」 （5年）

①Picture Dictionaryを使い、行きたい場所と新出語を調べ、もう一方の画面で教科書の地図を使いながら道案内をする。発音がわからない語も音声聞き、自分で調べることができる。

②聞き取りの問題では関連する動画や資料を見ながら内容をまとめていく活動を行うことができる。



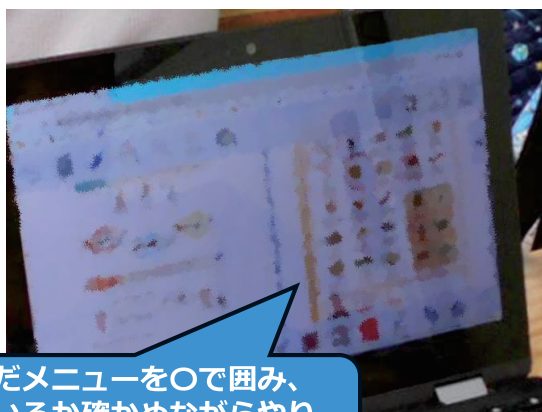
行きたい場所を決めたり、語の発音を確認したりすることができる。

例②

Unit 6 「What would you like?」 （5年）

①Picture Dictionaryを使って自分が食べたい料理を決め、値段をたずね合ったり、メニューを考えたりする。

②ペアで注文したり注文を受けたりする。Picture Dictionaryに自分が選んだものと相手が選んだもので色を変えて分かりやすいように囲み、発音も確認しながら注文の仕方と語に慣れ親しむ。



友達が選んだメニューを○で囲み、聞き取れているか確かめながらやり取りを行う。

【考察】

- ◎必要な語がすぐに調べられるため、活動までの準備がスムーズに行うことができた。
- ◎教科書と違いすぐ書いたり消したりできるため、メモを取りながら聞く児童が増えた。また、自分のタイミングで動画の視聴が始められるため、集中して取り組むことができた。
- ◎紙の辞書と交互に使うよりも操作が早く、語を調べる時間の短縮となり、活動の時間を長くとることができた。

▲「見るときは便利だが、書きにくいからまとめるのは紙がいい」などの意見があったため、自分で選択できるような声掛けをしていく必要がある。

注：本市では「NEW HORIZON Elementary English Course(東京書籍)」を使用しております。著作権保護の観点から画像を一部加工しております。

学習者用デジタル教科書・1人1台端末活用事例

活用事例② 画面キャプチャ機能の活用

<デジタル教科書活用のポイント>

学習者用デジタル教科書の書き込み機能を使い、画面上に記載した内容を全体共有するため、画面キャプチャを行って学習支援アプリで提出させる。その結果、他者の考えを参照したり、友達と自分の回答を比較したりすることができる。

【関連領域】

聞くこと

話すこと〔やり取り〕〔発表〕

書くこと

例① 興味・関心を高める場面

単元の導入場面で英語の音声を一齐に聞き取り、何が聞こえたかについて、デジタル教科書上に書き込む。互いの回答を見比べ、興味・関心を高めるとともに、単元の学習内容に見通しをもたせる。

例② 児童の考えを比較させる場面

児童が考えたメニューや好きなものなど、絵やカードを使って書いたりまとめたりしたものをクラス内で共有する。

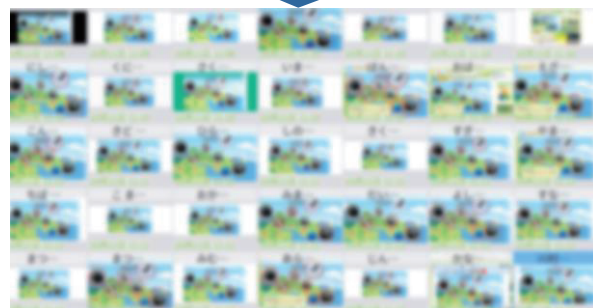
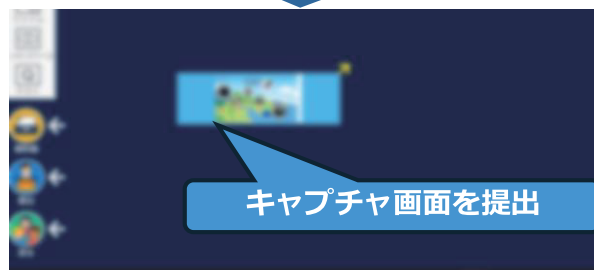
例③ 児童の考えを広げる場面

発表するにあたって、自分の考えを整理するためのマッピング等を共有することで、友達の考えを参照する。

例④ 4線上に書いたものを確認する場面

「書くこと」の指導を行ったあと、児童が端末上で4線に書いた文字等を確認し、文字の高さの違いなど指導する。

※他教科等と同様、自分の考えだけで終わるのではなく、考えを広げたり、深めたりするためのきっかけとして利用できる。



成果

◎発言や挙手が苦手な児童も自分の意見を表現し、共有することができる。

◎即座に共有することができ、視覚的に比較できるため、分かりやすい。

◎写真や字を拡大することもできるため細部まで見やすい。

▲前提として画面キャプチャから提出までの一連の流れについて、全児童が方法を習熟する必要がある。

注：本市では「NEW HORIZON Elementary English Course(東京書籍)」を使用しております。著作権保護の観点から画像を一部加工しております。

活用事例③ 録画リンクをデジタル教科書上に記録

<デジタル教科書活用のポイント>

学習者用デジタル教科書のリンク貼付け機能を使って、教科書をバージョンアップさせることができる。自身の録画記録や関連する映像サイト等を記録する。単元中盤、単元末等、自身の記録を学習ログとして残すことができる。

【関連領域】

聞くこと

話すこと〔発表〕

例①

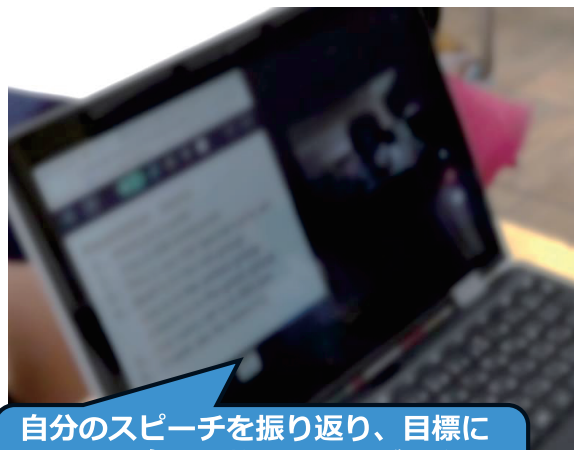
Unit 5 Where is it from?(6年)

モジュールの時間や家庭学習を利用し、スピーチの練習動画を撮影、デジタル教科書に動画のリンクを貼る(動画素材をクラウドに保存し、リンクを取得)。練習動画を視聴して、目的や場面に合っているか、相手に伝わる表現になっているかなどを振り返り、学習調整を行う。発表動画も撮影し、教科書にリンクを貼る。単元末には練習と発表を見比べ、自分の学習の成果を振り返る。

〔教師から示すスピーチの例〕

スピーチに必要な要素

- ①料理名 (例 This is my spaghetti.)
- ②食材の産地
(例 The tomato is from Kumamoto.)
- ③食材の属する栄養素の色
(例 The tomato is in the green group.)
- ④食材についての情報などでせりふをふくらませよう。
(例 The tomato is 300 yen.
The tomato is sweet.
The tomato is my favorite vegetable.)



【考察】

- ◎教科書上にリンクがあることで簡単に開くことができ、動画が撮りっぱなしになることを防げるため、振り返りがしやすい。
- ◎CAN-DOリストとも照らし合わせ、自分がどの単元で何をできるようになったか確かめることができる。
- ◎家庭と学校とのシームレスな学びを推進することができる。
- ▲動画を撮影した後、ドライブに保存しなければいけないため、手間がかかる。

指導上の留意点（中学校）

「言語活動を通して」指導する

言語活動とは…

知識及び技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を育成するために取り組ませるもの
学習指導要領「2 内容」

〔知識及び技能〕

（１）英語の特徴やきまりに関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

（２）情報を整理しながら考えなどを形成し、
英語で表現したり伝え合ったりすることに関する事項
（３）**言語活動**及び言語の働きに関する事項

活用して

通して指導する

〔留意事項〕

文法構造の概念的な理解だけを追求して、一方的な教師の説明に終始するのではなく、コミュニケーションの目的を達成する上で、いかに文法が使われているかに着目させて、**生徒の気づきを促す指導**を考える。

「中学校学習指導要領解説外国語編」p93

3 指導計画の作成と内容の取扱い （２）内容の取扱い

文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気づきを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

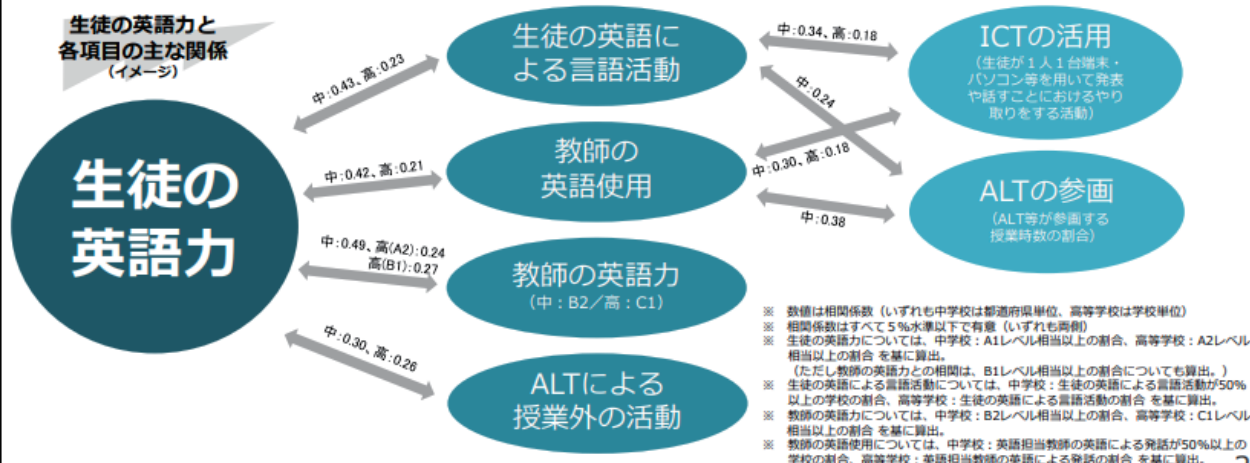
生徒の英語力向上に関する分析と今後の取組について

- 生徒の英語力の向上には、**生徒の英語による言語活動、教師の英語使用・英語力、ALTとの授業外活動等**が影響。また、**CEFR B1レベル（英検2級）相当以上**の高校生の割合の増加には、教師が**CEFR C1レベル（英検1級）相当以上を取得していることが特に影響を与えている。**
- ICTの活用やALTの参画は、**生徒の英語による言語活動や教師の英語使用の充実に影響を与えている。**
- ⇒**生徒の英語力向上には言語活動や教師の英語使用等が必要であり、そのためにICT・ALTの活用等が重要。**

【今後の取組】

- ①デジタルを活用した**パフォーマンステスト**の実施促進等のため、**MEXCBT（文部科学省CBTシステム）に「話すこと」等の問題を搭載し、5月9日公表。**
※詳細は別紙参照
- ②**AI**を授業・家庭学習・パフォーマンステストで活用し、**言語活動の充実等につなげるための実証研究を実施。【R6～（新規）】**
- ③本調査において**特に課題が見られる自治体**について、有識者による**個別のデータ分析**を行い、フィードバックや助言を実施。【R5～】
- ④本調査とR5全国学力・学習状況調査とのクロス分析により、英語力向上に影響を与える取組等を詳細に分析中。今後公表予定。【R5～】

生徒の英語力と
各項目の主な関係
(イメージ)



学習者用デジタル教科書活用実践事例

単元名 Let's Read1 A Mother's Lullaby

東京書籍 NEW HORIZON English Course 3

<本時の目標>

物語を読んで、物語の内容や登場人物の心情などを理解し、その内容や感想を伝える。

<本時の評価規準>

物語の概要を理解した上で、その内容や自分の感想などを、自分の言葉で伝えている。

<デジタル教科書活用のポイント>

個人で音読練習の時間を設定し、イヤホンを用いてデジタル教科書の音声を聞く。ただ聞くだけでなく、必ず声に出すことを徹底する。生徒各自がデジタル教科書の各機能を選択し、活用することで個別最適な練習が可能となる。

Greeting/
Warm up/
Review

【導入】

- ・あいさつをする。
- ・Small Talk
- ・前時の復習をする。

【展開】

絵を示しながら、自分の言葉で、物語の概要や感想をペアで伝え合おう。

- ・音読練習をする

Check Today's
Goal/
Reading

【各種音声再生機能を活用した音読練習】

- ・再生速度の調整：音声の再生速度を自由に調整可能。自分に合った速度で練習できる。
- ・再生間隔の調整：音声の後のポーズ秒数を設定できる。
- ・センテンス／スラッシュ再生：センテンス単位に加え、意味のまとまりごとに音声を再生。
- ・カラオケ機能：音声に合わせて、本文を赤色で表示したり、文字を消したりできる。
- ・マスク機能：品詞ごとや新出単語など選択が可能。ペアでの音読練習に最適。

Speaking

- ・スピーキング活動をする。
ストーリースライドの挿絵を表すキーワードを考える。その後、ペアで共有する。
- ・ペアワーク後、クラス全体で共有する。
- ・挿絵とキーワードを見ながらペアでリテリング活動を行う。

Reflection/
Greeting

※思考・判断・表現…物語の概要を理解した上で、その内容や自分の感想などを、自分の言葉で伝えようとしている。（行動観察・ふり返しカード）

【終末】

- ・リテリングした内容を振り返りシートに書く。

【デジタル教科書を活用した音読による生徒の変容】

生徒が自分に必要な箇所を繰り返し練習できるので、個別最適な練習をすることができ。モデル音声を聞きながら練習を重ねることで、強勢やリズムを意識して登場人物の心情をより感情豊かに表現できるようになった。また、回数を重ねることで、内容理解も深まった。

学習者用デジタル教科書活用実践事例

単元名 Unit 5 Universal Design

東京書籍 NEW HORIZON English Course 2

<本時の目標>

身近にあるユニバーサルデザインの製品の特徴を読み取り、理解した内容を他者に分かり易く伝える。

<本時の評価規準>

身近にあるユニバーサルデザインの製品の特徴を読み取り、理解した内容を整理、再構築して他者に伝えようとしている。

<デジタル教科書活用のポイント>

本文の内容を理解を深められるよう、デジタル教科書の書き込み機能を活用して、読み取って気付いたことを入力する。また、意味がわからなかった語や表現にハイライトすることで、自律的な学習を促進させることができる。

Greeting/
Warm up

【導入】

- ・あいさつをする。
- ・前時の内容でBINGOゲームをする。

【展開】

身近にあるユニバーサルデザインの製品の特長を読み取り、理解した内容を他の人に分かり易く伝えよう。

- ・教師の提示による図や写真を見ながら、本文のイメージを膨らませる。
- ・ペアで協力して、本文の内容を読み取る。

Check Today's
Goal/
Reading

【書き込み機能を活用した本文の内容読解】

- ・学習者用デジタル教科書の書き込み機能を活用して、読み取ったことを記入する。
- ・意味のわからなかった語句やキーワードとなる語句にマーカーを引くことで、生徒の主体的な学習と教科書本文の習得を促進する。

- ・読み取った内容をペア同士で伝え合う。
- ・読み取った内容を整理し、書き込みを加える。
- ・伝え合った内容をもとに教科書本文の音読練習をする。

Speaking/
Reading

【音声再生機能を使った音読練習】

書き込んだ内容を踏まえ、英語の音声やリズムを確かめながら音読する。

※主…読み取った内容を整理し、相手に分かり易く伝えようとしている。（行動観察）

Reflection/
Greeting

【終末】

- ・本時の学習内容を学習支援アプリにまとめて提出する。

【デジタル教科書を活用した音読による生徒の変容】

- ・読解場面において、分かったことや気付いたこと、疑問点をメモしながら読むことで、内容の理解が深まった様子を見とることができる。
- ・一斉指導では、個々の音読レベルを上げるのは難しい面もあったが、個別に行うことで、どの生徒も強勢や抑揚に気を付けて読むことができるようになった。

「話すこと〔やりとり〕」における「指導と評価の一体化」を重視した単元計画

「話すこと〔やりとり〕」における「指導と評価の一体化」を重視した単元計画

第2学年 UNIT 4: Homestay in the United States

単元の目標：日米の生活習慣や文化の違いを知り、習慣やマナーについて尋ねたり伝えたりすることができる。
 本単元の評価規準：教科書の本文を読後、日米の生活習慣や文化の違い等を整理し、日本に初めてくる外国人に対して習慣やマナー、アドバイスなどを順序立てて伝えようとしている。【※下線部は見取りのポイント】

時間	ねらい（■）評価規準（◆）言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■単元の目標と評価規準を理解する。 ■ホームステイにおいて何が大切か確認し説明する。 ①教科書の本文を読み、引用するなどしながら考えた事や感じた事を伝え合う。 ②＜have to＞の用法の特徴やさまりを理解する。 ◆本時の評価規準：ホームステイにおいてすべき事や大切な事について自己の考えを理由とともに伝えようとしている。	○	○	○	・自分の考え等を伝える際は、語句ではなく文で伝えさせる。 ・後日行うパフォーマンステストに向け、「帯活動」で、ホームステイに関する「話すこと〔やりとり〕」の言語活動に積極的に取り組みさせ、相手の話に関わらせたり質問したりさせる。
2	■対話文を読み、日米の生活習慣や特徴の違いを知り考えた事や感じた事を順序立てて伝え合う。 ①対話文を読み、本文を引用するなどしながら考えた事や感じた事を順序立てて伝え合う。 ②＜must＞を含んだ助動詞の用法の特徴やさまりを理解する。 ◆本時の評価規準：教科書本文から得た情報を論理的に整理した上で順序立てて伝えている。	○	○		
3	■対話文を読み、自分の予定や考えを伝え合う。 ①繰り返し対話文を聞きシャドウイングや感情をこめて読む。 ②＜must＞や＜have to＞を使って自分のスケジュールを相手に伝え合う。 ◆本時の評価規準：自分の予定や考えについて場面や状況に合わせて適切な表現を用いて相手に伝えようとしている。	○	○	○	
4	■ホームステイをしたクラスメートの体験談について書かれた文章を読み、考えた事や感じた事を伝え合う。 ①ホームステイをしたクラスメートの体験した内容に関する自分の考えや感じた事をペアで論理的に伝え合う。 ②＜動名詞＞の用法の特徴やさまりを理解する。 ◆本時の評価規準：教科書本文から得た情報を論理的に整理した上で順序立てて伝えている。	○	○		
5	■ホームステイをしたクラスメートの体験談について書かれた文章を読み、クラスメートへの適切な表現でアドバイスをする。 ①ホームステイをしたクラスメートが何に困っているのか読み取り、適切な表現でアドバイスしている。 ②グループでお互いの意見や考えを共有し合う。 ◆本時の評価規準：クラスメートが何に困っているのか読み取り、適切な表現でアドバイスしている。	○	○		
6	■ペアになり、ホームステイでの大切なことを伝え合う。 ①ホームステイでの大切な事について伝える。 ②海斗の体験したことを読み取り、読み取れた内容に関する自分の考えや感じた事をペアで論理的に伝え合う。 ◆本時の評価規準：教科書本文から得た情報を論理的に整理した上で順序立てて伝えている。		○		
7	■適切な表現でパトリックへアドバイスする。 ①気になっていること3つを読み取る。 ②ペアになり相手をパトリックとみだてて自分の考えやアドバイスを適切な表現で伝え合う。 ◆本時の評価規準：自分の考えを適切な表現でアドバイスしている。	○	○		
8	■より良いプレゼンテーションにするために、他者の助言をもとに、自己調整を行い、論理的な表現力を高める。 ①日本のマナーや習慣について簡単な語句や文を用いて表現している。 ②自分の経験や習慣などをおりまぜながら論理的に伝える。 ◆本時の評価規準：日本の生活習慣やマナーを知ってもらうために、自己の考えを順序立てて論理的に表現しようとしている。	○	○	○	
9	論理的な表現力育成に関するパフォーマンステスト	○	○	○	

生成AI等の活用事例

生成AIは適切に利用できれば革新的なツールになり得るものであり、英語教育の在り方をそのものを変える可能性を秘めている。ここでは、生成AIの得意・不得意を踏まえ、英語教育において日々の授業で実践できる一例を紹介する。特に、補助教材作成にフォーカスし、特定の単語や文法を使用した例文・会話作成、テーマ別・習熟度別英文作成、読解・聴解問題作成等、実践例を参考にされたい。

「Gemini」（Google workspace for Education）の活用例

例①

中学校3年生レベルで仮定法の例文を10個作成してください。中学生が日常生活で使いそうな内容にしてください。

◆ 分析が完了しました ▼

中学3年生レベルの仮定法の例文 (日常生活)

1. If I were you, I would apologize to her. (もし私があなただったら、彼女に謝るだろう。)
 - 誰かと喧嘩してしまった友人に、謝ることを勧める状況。
2. If I had more time, I would join your club. (もしもっと時間があれば、あなたのクラブに参加するの。)
 - 部活動に誘われたけれど、忙しくて参加できない状況。
3. If I could speak English fluently, I would travel around the world. (もし英語を流暢に話せたら、世界中を旅するの。)
 - 英語学習のモチベーションを高める状況。
4. If I won the lottery, I would buy a new smartphone. (もし宝くじが当たったら、新しいスマホを買うの。)
 - 宝くじで高額当選したら、何をかうか想像する状況。

例②

中学校2年生レベルで、日常会話のリスニング教材を作成してください。テーマは「週末の過ごし方」です。

◆ 承知いたしました。中学2年生レベルの日常会話リスニング教材を作成します。テーマは「週末の過ごし方」ですね。以下に教材の例と、活用方法をご紹介します。

リスニング教材例

会話の場面設定:

- 登場人物: 中学2年生の男女2人 (ケンとユミ)
- 場所: 学校の廊下
- 状況: 月曜日の朝、週末の出来事について話している。

会話:

ケン: Hi, Yumi. How was your weekend?
ユミ: Hi, Ken. It was great! I went to the movies with my family.
ケン: Oh, what did you see?
ユミ: We saw the new animated movie. It was really funny.
ケン: Sounds fun. I stayed home and played video games.
ユミ: Did you play with your friends?

<https://gemini.google.com/app>

「DeepL Write」の活用例

DeepL Writeは、高度なAI技術を駆使し、自然で洗練された英語文章作成を支援するツールである。文法・スペルチェック機能による正確性の向上させ、表現の多様性・自然な英語表現の習得させることができる。以下の留意点を踏まえ、生徒が効果的に活用できる環境を整えたい。

DeepL Writeで文章力を向上

英語 (イギリス) ▼

文体 ▼ 用語

変更箇所を表示

This weekend was so much fun! On Saturday, I go to the movies with my friends. We watchd a comedy, and it was hilarious. On Sunday, I stayed home and studied for my math test. It was hurd, but I think I did well. I also played video games and relaxed. I'm redy for school tomorrow!

This weekend was so much fun! On Sa
go → went to the movies with my friends. We
watchd → watched a comedy, and it was
hilarious. → hilarious. On Sunday, I stayed home
and studied → studied for my math → maths test.
It was hurd → hard, but I think I did well. I also played
video games and relaxed. I'm redy → ready for
school tomorrow!

教師の英作文の添削をDeepLで代替することが可能である。その為、生徒自身が英文を自作する。英作文の目的に沿って自身が理解できる語や表現が使われているか等、提案を鵜呑みにしないよう十分に指導する。

<https://www.deepl.com/ja/write>

※生成AIの活用においては、以下のガイドラインに則って利用すること

戸田市の教育における生成AIの利用に関するガイドライン (令和5年9月)
<https://www.city.toda.saitama.jp/uploaded/attachment/62857.pdf>

文部科学省 (令和6年12月)
初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン (Ver.2.0) 【概要】
https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf



参考資料

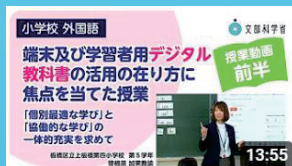
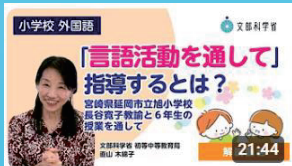
【小学校】文部科学省/mextchannel

外国語教育はこう変わる！動画リスト一覧

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f>



【参考動画サムネイル】他多数配信あり



【中学校】文部科学省/mextchannel

外国語教育はこう変わる！動画リスト一覧

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f>



【参考動画サムネイル】他多数配信あり



【中学校】国立教育政策研究所

中学校英語指導事例集の紹介 (R7年3月)

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoeigo/r07.html#03>



【参考動画サムネイル】



【小・中共通】埼玉県教育委員会



英語教材バンク



国際理解教育実践事例

文部科学省
リーディングDXスクール



実践事例・動画